

【別紙様式 = 小学校用】

都道府県番号	13
都道府県名	東京都

【    】

・ 学校名及び規模

三鷹市立北野小学校								
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	教員数
学級数	3	3	2	3	2	3	16	24
児童数	82	88	66	93	64	81	474	

研究の概要

(1) 研究主題

「確かな力」を育てる算数科の学習（補充学習と発展学習を通して）

(2) 研究主題設定の趣旨

本校は、教育目標の中で特に考える子どもを重点においている。学校生活における全教育活動を通して児童の「考える力」の不足を感じる場面が多い。算数科における児童の学びの様子を見ても、同様の学習態度が見える。そこで、算数科の少人数指導を突破口に児童の「考える力」を育成していく。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

算数科の少人数学習の効果的な実施のため、少人数担当教諭を配置し、時間割の編成や教室の配置などを工夫する。

授業研究を中心に各学年の発達段階に対応した少人数学習の進め方を工夫する。

保護者地域に情報を配信し、少人数学習に対する理解と協力を得て、少人数学習を進める。

(3) 研究の成果と課題

【成果】

児童が算数を生き生きと学び始めた。

意識調査の結果から、全児童の8割以上が算数が好きであり、9割以上の児童が算数が分かると評価している。

少人数指導のあり方が明らかになった。

- ・ 少人数指導は個人差に対応する手段として有効である。

少人数指導は単に少人数にしても効果は上がらない。個人差に対応することが大切であり、対応する個人差の開きにより「習熟度別学級内学習」「習熟度別TT学習」「習熟度別コース選択学習」と指導形態を変えていく。習熟度別コース選択学習は、個人差が大きく、コース選択が児童の判断でできる時に有効な方法である。

- ・ 普段から補充・基礎・発展を意識した授業への改善をはかることが肝要である。

普段の授業から個人差への対応を配慮し、補充・基礎・発展を意識して授業を改善する。

その改善なくして少人数指導は成立しない。

【課題】

少人数指導に対応した学習指導計画を完成させる。

各学年の実践を縦の系統性を持って調整を行い、算数科全体の学習指導計画を完成させる。毎時間提示する学習問題を指導計画に位置づけ、問題解決型の学習展開に参考となるような学習指導計画を提示する。

指導と一体化した評価方法を探求する。

評価規準の見直しを行う。単元の評価規準をもとに学習活動におけるより具体的な評価規準を明らかにし、指導と評価の一体型を目指す。そのために学習カードや教師用カルテの様式をよりいっそう分かりやすく使いやすいものにするべく工夫する。

(4) 研究成果の普及と方策

平成15年10月9日 研究発表会（総計603名、他県からの参加者194名）

平成15年度 研究授業を木曜日の5校時目に設定し、参観を受け入れ

（9月までの6回で、のべ82名）

平成15年度 少人数指導について視察の受け入れ（11月までで計7件）  
 研究の成果をインターネット、イントラネット等により、普及していく。

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	<input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	<input checked="" type="checkbox"/> 13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	<input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	<input checked="" type="checkbox"/> 算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	